

会報 No. 18

2021年12月8日発行

発行・編集 日本学習社会学会事務局

Japanese Association for the Study of Learning Society

日本学習社会学会

事務局 〒156-8550 東京都世田谷区桜上水 3-25-40

日本大学文理学部教育学科気付

TEL: 03-5317-9370(事務局長田中謙研究室直通)

FAX: 03-5317-9425(日本大学文理学部教育学科)

学会 HP: <http://learning-society.net/>

会報第18号をお届けします。本号では第18回大会の課題研究の報告、理事会および総会の報告、年報第1⑧号の自由研究論文の募集などについてお知らせいたします。会員の皆様には、引き続き本学会の発展のためにご協力くださいますようお願い申し上げます。

第18回大会を終えて 第18回大会実行委員会実行委員長 堀井啓幸

日本学習社会学会第18回大会は、2021(令和3)年8月28日(土)、29日(日)に日本学習社会学会事務局と常葉大学の共催として開催され、特段のトラブルもなく、無事に終了できましたことをご報告いたします。

新井郁男学会長から、「是非対面での学会大会の開催を」と呼び掛けていただきましたのでぎりぎりまで集会型での開催を目指しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、集会型での開催は困難との最終的な判断から、オンライン大会へ変更されました。昨年度、手探り状態での大会運営で参加者が少なかったという反省を踏まえ、オンライン大会になっても支障なく運営できるように会員の皆様への大会案内や情報提供を早めにかつ明確に行い、紙媒体での発表要旨集の郵送も含めて、オンライン開催になっても発表しやすく、聞きやすい体制に配慮いたしました。また、研究推進委員会、国際交流委員会からも大変充実した企画をしていただきました。学会事務局からの提案で、学会への勧誘も含め、参加希望者には無料で大会参加を認めたこともあって、結果的に、理事会・自由研究発表・課題研究1・2・3の企画で、両日ほぼ100名ずつ、延べ約200名の参加がありました。大会への参加をきっかけに学会への入会希望者が増えることを期待しております。

自由研究発表は、オンライン発表になっても辞退者はなく、25件の発表がありました。

研究推進委員会企画の課題研究1「コミュニティ・スクールの最新動向と持続可能な運営体制におけた課題ーコミュニティ・スクールの運営・意識・取組等に関する基礎的調査をふまえてー」は、志々田まなみ研究推進委員長のコーディネート・進行で、三菱UFJリサー

チ&コンサルティング株式会社の阿部剛志氏と永野恵氏から全国実態調査の結果が報告され、鈴木廣志会員、西祐樹会員からそれぞれの経験を踏まえた提案がなされました。また、国際交流委員会企画の課題研究2「学校教育と公共図書館の連携による子どもたちの学びのかたち」は、赤尾勝己国際交流委員長のコーディネート・進行で、デンマークで図書館司書を務めている沢広あや氏、アメリカの図書館研究で研究を重ねてこられた獨協大学教授の井上靖代氏、坪内一会員から報告がなされました。本学大会実行委員会企画の課題研究3「生涯学習の基盤を形成する学校図書館像を考える その2ーカリキュラム・マネジメントとの関わりからー」では、本学の鈴木守会員のコーディネート・進行で、御前崎市教育長(元・静岡県立中央図書館長)の河原崎全氏、小谷田照代氏(元・静岡県沼津市立静浦小中一貫学校専任司書教諭)、笠井尚会員、磯部真代会員から報告がなされました。そして、本学の星野洋美会員と宇内一文会員の企画調整・進行で行われた公開シンポジウム「多文化共生社会における学校と地域の役割ー外国につながるのある子どもたちの教育支援を考えるー」では、吉田拓司氏、古橋水無氏、菅野真紀氏、太田理恵氏、山崎雄太氏から、学校と地域が協働して行う外国につながるのある子どもたちへの教育的支援の取組(静岡県の2つの事例)について報告がなされました。本学で開催された日本学習社会学会第4回大会(2007年)以来、14年ぶりに開催された本大会において、時代を経て進化しつつある静岡県の多文化共生社会の今を発信できたのではないかと思います。

オンラインでのご発表や質疑応答で制約も少なからずあったと思いますが、国内外の参加者からの発表、

参加者との活発な質疑も行われました。自由研究発表および、課題研究、公開シンポジウムの企画者・司会者・報告者の皆様、そして、オンライン開催を支えてく

ださいました学会事務局の先生方には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

CONTENTS

第18回大会を終えて	1
課題研究報告	3
公開シンポジウム報告	7
理事会報告	8
第18回総会報告	15
お知らせ	16
年報第18号の自由投稿論文の募集.....	17

課題研究 I 報告

コミュニティ・スクールの最新動向と持続可能な運営体制にむけた課題 ーコミュニティ・スクールの運営・意識・取組等に関する基礎的調査をふまえてー

* 以下、コミュニティ・スクールは CS と略記

【コーディネーター】

志々田 まなみ(国立教育政策研究所)

【報告・提案者】

報告1:永野 恵 (三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社 研究員)

「CS の効果的運営に向けた取り組み方ー文部科学省委託調査結果からー」

報告2:鈴木 廣志 (栃木市地域政策課 社会教育指導員、文部科学省 CS マイスター)

「CS の持続可能な体制づくりについてー学校管理職の視点からー」

報告3:西 祐樹 会員 (春日市財政課、文部科学省 CS マイスター)

「CS の持続可能な体制づくりについてー教育行政職員の視点からー」

報告4:阿部 剛志 氏 (三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社 主任研究員)

「CS の体制整備の課題と充実・改善に向けた提案」

本課題研究では、研究推進委員会として取り組んできた CS の運営体制に関する研究成果に加え、外部有識者からの情報提供や提案等を交えながら、今後の持続可能な運営体制の在り方について協議が行われた。終盤にはチャット機能を用いて参加者との意見交流や質疑も活発に行われ、多角的な視点からの協議ができた。

まずは近年の CS の実態について、文部科学省の委託研究「CS の体制整備に関する基礎的調査」を担当した三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社の永野恵氏から、ここ数年の変化について報告があった。さらに実態分析から見えてくる CS の効果的な運営のポイントとして、校内での目的・目標の設定や、関係者間での明確な役割分担や仕組みづくり、教育委員会から学校に対する支援の充実の重要性について指摘された。

鈴木廣志会員からは、校長として CS に関わった経験から見えてくる運営のポイントとして、CS 委員の学校運営に対する参画意識を育むことが重要であり、そ

のために、情報共有の場の確保や、熟議や活動の質的な向上をはかる研修の充実、校長の明確な学校運営方針の設定の重要性等が指摘された。

西祐樹会員からは、CS 運営に行政職員として関わってきた経験から見えてきた運営のポイントとして、学校と地域の双方から学校運営への提案が行われ、実行できる関係性を育むことが重要であり、そのためには、学校が CS 委員に率直に問題や課題を説明することや、CS 委員から寄せられた思いや意見、要望を自治体の計画や予算編成へつなげていくこと、学校管理職だけでなく、学校事務職員を含むすべての教職員に CS の取組を共有することの重要性等が指摘された。

三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社の阿部剛志氏からは、ここまでの議論を受け、多様な主体が関わりあう組織の中で、目的・目標、情報を共有し、役割分担をし、対話的に協働を進めるポイントについて、組織論の視点から整理がおこなわれた。なかでも、「意志ある」目的・目標を設定していくプロセスとして、

関係する実態をデータ(数字)で説明することや、関係者の思いを徹底的に出し合い、聞き取る機会を作ること、課題やビジョンについて誰にでもわかる表現で設定することの重要性について指摘された。

報告: 志々田まなみ(国立教育政策研究所)

課題研究Ⅱ 報告

学校教育と公共図書館の連携による子どもたちの学びのかたち

【司会・コーディネーター】

企画趣旨の説明：赤尾勝己

司会：大野順子（摂南大学）・赤尾勝己（関西大学）

【報告者】

報告① 沢広あや（図書館司書・デンマーク在住）

「デンマークにおける公共図書館の学校・地域支援」

報告② 井上靖代（獨協大学）

「アメリカ都市部と地方における公共図書館の学校への支援および学校図書館の位置づけ」

報告③ 坪内一（司書・元横浜中央図書館）

「教員・生徒・図書館員で取り組むビブリオバトル～読書のアクティブ・ラーニング～」

課題研究Ⅱでは、標記の研究テーマのもと、3名から報告をいただいた。報告①「デンマークにおける公共図書館の学校・地域支援」の発表者は、デンマーク在住で図書館の司書を務めておられる沢広あや氏である。デンマークでは、小学校からデジタル教材、PCをベースにした授業やグループワーク、プレゼン方法などが用いられ、授業や学習形態も多様化している。2014年の学校教育法の改定によって、学校は、地域の企業、団体、公共施設と積極的に協働することが義務付けられた。ここではまず、デンマークの全国中央図書館連盟と、全国学校教材センターが、子どもたちのメディアリテラシーを鍛えるための教材として、デンマーク文化省の支援を受けて共同開発したオンライン学習教材が紹介された。これを使って、学校教員だけでなく、公共図書館司書が図書館内や学校に出向いて調べ学習をとおしてメディアリテラシー高める指導を行っている。次に、コペンハーゲン郊外のバレルupp市の公共図書館が、市の授業支援センター、学校教育と共同で毎年開催して、市内のすべての小学校6年生が参加している「音読チャンピオンシップ」が紹介された。さらに、メーカースペースという、子どもたちが3Dプリンターなどを使って創作活動ができるスペースが公共図書館にあり、図書館は学校向けにメーカースペースに関連したさまざまな講座を提供している。このように、デンマークでは、

公共図書館が、学習指導要領に沿った取り組みを積極的に準備して学校に提供している。日本でもこうした実践が期待されよう。

報告②「アメリカ都市部と地方における公共図書館の学校への支援および学校図書館の位置づけ」の発表者は、獨協大学教授で司書課程・司書教諭課程を担当されている井上靖代氏である。米国の公共図書館には、乳幼児から児童・10代、成人への継続した公共図書館利用をねらいとした児童・ヤングアダルト向けサービスがあり、さまざまなプログラムの企画提供が行われている。また、デンマークと同様に、PC、3Dプリンター、ミシン、楽器などが揃っているメーカースペースがあり、そこで子どもから成人が活動している。さらに、宿題支援プログラム、家庭教師プログラム、読書支援など多岐にわたるプログラムが提供されている。また、学校図書館では、リテラシー教育や「読書」科教師との連携による読書支援など、専任司書教諭による授業が行われているところもある。むしろ、司書教諭の養成は各州で異なり、州や地域による格差があることは課題として残されている。しかしながら、こうしたアメリカの事例も、日本の先進的な市や地域で試行されてもよいと思われる。

最後の報告③「教員・生徒・図書館員で取り組むビブリオバトル～読書のアクティブ・ラーニング～」の発表者は、坪内

一会員である。ここでは横浜市の事例として、学校司書(非常勤特別職)の小・中・特別支援学校計499校への全校配置と、2014年に施行された「横浜市民の読書活動の推進に関する条例」が紹介された。そして、「市民参加」で行われているビブリオバトルの実践が、子どもたちの読書意欲を喚起し、感性を豊かにするとともに、他者との関わりの中で自己のスキルを高めていく楽しさを経験させてくれる貴重な機会となっていることが紹介された。

報告:赤尾勝己(関西大学)

公開シンポジウム報告

多文化共生社会における学校と地域の役割

「外国につながるのある子どもたちの教育支援を考える ー浜松市と菊川市の事例からー」

【コーディネーター・進行】

星野洋美(常葉大学大学院 教授)・宇内一文(常葉大学 准教授)

【報告者】

吉田拓司(浜松市立江南中学校 校長)

古橋水無(浜松市教育委員会 指導主事)

山崎雄太(菊川市役所 総務部地域支援課 係長)

菅野真紀(虹の架け橋 菊川小笠教室 指導員)

太田理恵(菊川市こども政策課 放課後児童支援員)

見
点
兄
の
理
由
で
な
ら
な
い
と
思
い
ま
す

1. 趣旨

1990年の改正入管法施行より約30年を経た現在、外国人労働者数は約172万人(2020年10月末現在)となり、5年連続で過去最多を更新している(厚生労働省2020)。また、外国人労働者の増加に伴い、日本語指導が必要な児童生徒も増加傾向にある。外国人労働者とその家族の長期滞在や定住化が進み、多文化共生が必至となった静岡県の一部地域では、地域・学校・家庭が協働し、外国につながるのある子どもたちへの様々な支援が行われるようになった。

本シンポジウムでは、多文化共生の実現は学習社会に課せられた重要な役割であるという考えのもと、静岡県で最も外国人の多い浜松市と人口比率が最も高い菊川市が先駆的に進めている外国につながるのある子どもの教育支援の実態と課題を提示し、子どもの将来を見据えた教育支援はどうかあるべきかを考え意見交換することを目的とした。

2. 各報告者の概要(報告順)

①古橋水無氏には、浜松市の現状として多国籍化、母語も日本語も不十分な子ども(ダブルリミテッド)の存在、日本生まれでも日本語支援の必要な児童生徒の増加、進路を見

国につながるのある子どもを取り巻く課題」について、有効な支援のための保護者・教員・支援員の連携の必要性について報告いただいた。

質疑応答では、地域と学校の連携による支援の可能性、多文化共生を踏まえた学校運営の配慮点、行政の役割と具体的な取組など、多くのご質問が寄せられた。応答いただいた報告者はもちろん、コメントいただいた田中真奈美氏(東京未来大学)及び福島一成氏(浜松国際交流協会)、島美佐子氏(早稲田大学大学院・院生)には心より感謝申し上げたい。本シンポジウムをきっかけに、「児童の権利に関する条約」や、「SDGsの質の高い教育をみんなに」において重要視されている子どもの教育の保障について関心を持っていただき、支援の輪を拡げていただけたら幸いである。

報告:星野洋美(常葉大学大学院)宇内一文(常葉大学)

理事会報告

2020年度第4回理事会

日時 2020年12月12日(土) 15:00~17:00

会場 web 会議(「Zoom」使用、事務局(日本大学文理学部))

出席者 新井 郁男・堀井 啓幸・佐藤 千津・佐藤 晴雄・富士原 雅弘・田中 達也・玉井 康之・入澤 充・岩崎 正吾・金塚 基・北野 秋男・栗原 幸正・佐久間 邦友・志々田 まなみ・柴田 彩千子・田中 謙・前田 耕司・若園 雄志郎・上原 直人・金山 光一・益川 浩一・若槻 健・井出 弘人・吉田 尚史・森岡 修一
(役職・地区順、敬称略) 計25名

欠席者 亀井 浩明・貝ノ瀬 滋・梶 輝行・赤尾 勝己・柏木 智子・望月 國男
(役職・地区順、敬称略) 計6名

陪席者 窪 和広(事務局幹事)
(五十音順、敬称略) 計1名

司会 田中 謙(事務局長)

1. 会長挨拶(新井郁男会長)

新井会長より、開会の挨拶がなされた。

2. 2020年度第4回理事会議事録の確認(田中謙事務局長)
(資料02)

田中事務局長より、資料02に基づき第4回議事録の確認依頼が行われた。

3. 報告事項

(1) 事務局報告(一般会務報告)(田中謙事務局長)(資料03)

田中事務局長より、資料03に基づき下記の状況が報告された。

①学会員の現況は一般会員221名、学生会員23名の合計244名であること。

②2020年度理事会等開催状況についての報告。

③寄贈図書が日本公民館学会より、日本公民館学会編(2020)『日本公民館学会年報第17号』の1冊があったこと。

(2) 各種委員会報告

①年報編集委員会(入澤充委員長※田中事務局長代理)(資料04)

田中事務局長より、資料04に基づき、年報編集委員会の体制、2021年度年報(17号)に向けて第17大会関連原稿について収集済みであると報告がなされた。

②研究推進委員会(志々田まなみ委員長)(資料05)

志々田委員長より、資料05に基づき、研究推進委員構成、来年度の活動計画について報告がなされた。

③国際交流委員会(赤尾勝己委員長※田中事務局長代理)(資料なし)

田中事務局長より、2021年度年報(17号)のための2020年度第17回大会の国際交流委員会企画の課題研究Iの原稿について収集済みであると報告がなされた。

④『学習社会研究』第4号編集委員会(吉田尚史委員長)(資料なし)

吉田委員長より、『学習社会研究』第4号について、自由投稿論文に6件の投稿申込み、依頼論文執筆者3名への依頼が終了し、特集論文7本と合わせて15本程度の論文が掲載される予定であると報告がなされた。

⑤学会賞選考委員会(岩崎正吾選考委員長)(資料06-1)

岩崎委員長より、資料06-1に基づき、学会賞選考に関する活動経過について報告がなされた。

(3) 国立国会図書館インターネット資料収集保存事業について(田中事務局長)(資料なし)

田中事務局長より、国立国会図書館からWEBサイト上のデータ・情報の保存の依頼があり、11月末が締切ということもあり、新井会長と相談の上、承認すると回答を行ったことについて報告がなされた。

(4) その他

特になし。

4. 審議事項

(1) 第18回大会の開催準備について(堀井啓幸大会実行委員長)(資料なし)

堀井大会実行委員長より、第17回大会についての謝辞が述べられ、第18回大会についてのスケジュール、課題研究の企画等について報告がなされ、承認された。

(2) 学会賞選考について(岩崎正吾選考委員長)(資料06-2)

3) 岩崎委員長より、資料 06-2・3に基づき、選考基準、審査結果報告書、選考委員に富士原雅弘会員の就任が示され、承認された。

(3)入退会者について(田中謙事務局長)(資料07)

田中事務局長より、資料07に基づき、入会申込者 1 名の入会が承認された。

(4)日本学習社会学会年報事務局内規(案)について(田中謙事務局長)(資料08)

田中事務局長より、資料08に基づき日本学習社会学会年報事務局内規(案)が示され、今後理事会で継続して取り扱いを検討していきたい旨が説明され、承認された。

(5)『学習社会研究』J-stage 登録等学事出版交渉について(田中謙事務局長)(資料なし)

田中事務局長より、『学習社会研究』J-stage 登録等学事出版交渉について、今後理事会で継続して取り扱いを検討していきたい旨が説明され、承認された。

(6)会報について(田中事務局長)(資料09)

田中事務局長より、資料09に基づき、第17回大会がオンライン開催より一部執筆者が変更になっている旨の説明がなされ、承認された。

(7)2021年度第1回理事会開催日程について(新井郁男会長)(資料なし)

新井会長より、2021年4月10日(土)15:00から開催したい旨が説明され、承認された。

(8)その他

特になし。

5.その他

特になし。

【配付資料】

- 資料01 2020年度第4回理事会次第
- 資料02 2020年度第3回理事会議事録(案)
- 資料03 一般会務報告
- 資料04 日本学習社会学会年報編集委員会理事会資料
- 資料05 研究推進委員会報告
- 資料06-1 日本学習社会学会学会賞選考に関する活動経過(2020年~)
- 資料06-2 日本学習社会学会学会賞(学術研究賞)の選考基準(案)

資料06-3 日本学習社会学会学会賞(学術研究賞)審査結果報告書(案)

資料07 入退会者一覧

資料08 日本学習社会学会事務局内規(案)

資料09 日本学習社会学会会報第17号(案)

回覧資料 退会申込書

2021年度第1回理事会

日時 2021年4月10日(土)15:00~17:00

会場 日本大学文理学部本館E/M TL教室、web会議(「Zoom」使用、事務局(日本大学文理学部))

出席者 新井 郁男・堀井 啓幸・佐藤 千津・佐藤 晴雄・富士原 雅弘・田中 達也・玉井 康之・入澤 充・岩崎 正吾・梶 輝行・北野 秋男・栗原 幸正・佐久間 邦友・志々田 まなみ・柴田 彩千子・田中 謙・前田 耕司・若園 雄志郎・上原 直人・金山 光一・益川 浩一・赤尾 勝己・柏木 智子・若槻 健・井出 弘人・吉田 尚史・森岡 修一

役職・地区順、敬称略)計27名

欠席者 貝ノ瀬 滋・亀井 浩明・金塚 基・望月 國男

(役職・地区順、敬称略)計4名

陪席者 窪 和広・本間 夏海・松岡 侑介(事務局幹事)

五十音順、敬称略)計3名

司会 田中謙(事務局長)

1.会長挨拶(新井郁男会長)

新井会長より、開会の挨拶が行われた。

2.2020年度第1回理事会議事録確認(田中事務局長)(資料02)

田中事務局長より、資料02に基づき第1回議事録の確認依頼が行われた。

3.報告事項

(1)事務局報告(一般会務報告)(田中謙事務局長)(資料03)

田中事務局長より、資料03に基づき下記の状況が報告された。

①学会員の現況は一般会員216名、学生会員23名の合計239名であること。

②2021年度理事会等開催状況について報告。

③寄贈図書が以下の5冊あったこと。

(1)早稲田大学教育学会『早稲田大学教育学会』22

(2)北野秋男・上野昌之編著(2020)『ニッポン、クライシス!—マイノリティを排除しない社会へ—』学事出版

(3)井谷泰彦(2021)『モーアシビからエイサーへ—沖縄における習俗としての社会教育—』ポーターインク

(4)古田雄一(2021)『現代アメリカ貧困地域の市民性教育改革』東信堂

(5)呉世蓮(2021)『日本と韓国における多文化教育の比較研究—学校教育、社会教育および地域社会における取り組みの比較を通して—』学文社

(2)各種委員会報告

①年報編集委員会(入澤充委員長)(資料04-1・04-2)

入澤委員長より、資料04-1にもとづき、年報編集委員会の体制、2020年度年報(16号)印刷費の実績、資料04-2に基づき2021年度年報(17号)編集委員会開催と編集業務予定、書評・図書详解等の対象候補図書が上記寄贈図書(2)~(5)になることについて報告がなされた。

②研究推進委員会(志々田まなみ委員長)(資料05)

志々田委員長より、資料05に基づき研究推進委員構成、本年度の活動計画について報告がなされた。

③国際交流委員会(赤尾勝己委員長)(資料06)

赤尾委員長より、資料06に基づき第18回大会課題研究、国際会議関連情報について報告がなされた。第18回大会課題報告者については、新井会長、赤尾委員長、堀井大会実行委員長、事務局で検討することが報告された。

④『学習社会研究』第4号編集委員会(吉田尚史委員長)(資料なし)

吉田委員長より、自由投稿論文6件、編集委員会から依頼論文3件、特集論文7件があることが報告された。

⑤学会賞選考委員会(岩崎正吾委員長)(資料08-1・08-2)

岩崎委員長より、資料08-1、08-2に基づき、審査担当、活動経過について報告がなされた。

(3)その他

①『日本学習社会学会年報』における公開シンポジウム、課題研究の報告論文の「査読」の確認について

前田理事より確認の必要性が提起され、公開シンポジウ

ム、課題研究の報告論文に関しては学会としては「査読論文」としては取り扱わないことを確認した。この旨の周知方法に関しては、今後年報編集委員会と協議していくことを確認した。

4. 審議事項

(1)2020年度決算案について(田中謙事務局長)(資料09)

田中事務局長より、資料09に基づき、2020年度決算案について説明され、承認された。

(2)2021年度活動計画案について(田中謙事務局長)(資料10)

田中事務局長より、資料10に基づき、2021年度活動計画案について説明され、承認された。

(3)2021年度予算案について(田中謙事務局長)(資料11)

田中事務局長より、資料11に基づき、2021年度予算案について説明され、承認された。

(4)学会賞について(岩崎正吾委員長)(資料13-1・13-2・13-3)

岩崎委員長より、資料08-1に基づき佐藤晴雄委員から桑原清会員への交代、資料13-1、13-2、13-3に基づき選考結果について説明され、承認された。

(5)第18回大会の開催等について(堀井啓幸大会実行委員長)(資料14)

堀井大会実行委員長より、資料14に基づき、第18回大会の準備日程案、課題研究案について説明され、承認された。

(6)入退会者について(田中謙事務局長)(資料15)

田中事務局長より、資料15に基づき入会申込者7名、申し出による退会者3名、会則第6条(3)による退会者10名について、承認された。

(7)『学習社会研究』第5号について(田中謙事務局長)(資料なし)

田中事務局長より、『学習社会研究』第5号の刊行について説明され、編集体制等については次回理事会で審議することが承認された。

(8)第19回大会の会場校について(新井郁男会長※代理田中事務局長)(資料なし)

田中事務局長より、第19回大会の会場校について、東京学芸大学で開催したい旨が提案され、承認された。

(9) 日本学習社会学会事務局内規(案)について(田中謙事務局長)(資料16)

田中事務局長より、資料16に基づき日本学習社会学会事務局内規(案)が示され、承認された。

(10) 2021年度第2回理事会開催日程について(新井郁男会長※代理田中事務局長)(資料なし)

新井会長より、2021年7月10日(土)15:00から開催したい旨が提案され、承認された。

(11) その他

田中事務局長より、研究会の開催等に説明され、次回理事会において継続審議とすることが承認された。

田中事務局長より、市野亮太会員に事務局幹事の委嘱が提案され、承認された。

【配付資料】

- 資料01 2021年度第1回理事会次第
- 資料02 2020年度第4回理事会議事録(案)
- 資料03 一般会務報告
- 資料04 日本学習社会学会年報編集委員会理事会資料
- 資料05 日本学習社会学会研究推進委員会活動報告
- 資料06 2021年度日本学習社会学会国際交流委員会から
- 資料07
- 資料08-1 学会賞選考委員追加名簿・審査担当表
- 資料08-2 学会賞選考に関する活動経過
- 資料09 2020年度決算案
- 資料10 2021年度活動計画案
- 資料11 2021年度予算案
- 資料12
- 資料13-1 審査結果報告書の書式
- 資料13-2 審査結果の理事会提出(1)
- 資料13-3 審査結果の理事会提出(2)
- 資料14 大会日程・公開シンポジウム案・本学提案課題研究案
- 資料15 入退会者一覧
- 資料16 日本学習社会学会事務局内規(案)
- 回覧資料 入会申込書、退会申込書(割愛)

日時 2021年7月10日(土) 15:00~17:00

会場 対面・web会議(「Zoom」使用、事務局(日本大学文理学部))

出席者 新井 郁男・堀井 啓幸・佐藤 千津・佐藤 晴雄・富士原 雅弘・田中 達也・玉井 康之・岩崎 正吾・北野 秋男・栗原 幸正・佐久間 邦友・柴田 彩千子・田中 謙・前田 耕司・若園 雄志郎・上原 直人・金山 光一・益川 浩一・赤尾 勝己・柏木 智子・若槻 健・井出 弘人・吉田 尚史・森岡 修一

役職・地区順、敬称略) 計24名

欠席者 入澤 充・貝ノ瀬 滋・梶 輝行・金塚 基・志々田 ま

(役職・地区順、敬称略) 計7名

陪席者 白鳥絢也(第18回大会実行委員会事務局長)・窪和広・本間夏海・松岡侑介(事務局幹事)

五十音順、敬称略) 計4名

司会 田中 謙(日本学習社会学会事務局長)

1. 会長挨拶(新井郁男会長)

新井会長より、開会の挨拶が行われた。

2. 2021年度第1回理事会議事録の確認(田中謙事務局長)(資料02)

田中事務局長より、資料02に基づき第1回議事録の確認依頼が行われた。

2021年度第2回理事会

3. 報告事項

(1) 事務局報告(一般会務報告)(田中謙事務局長)(資料03)

田中事務局長より、資料03に基づき下記の状況が報告された。

①学会員の現況は一般会員220名、学生会員22名の合計242名であること。

②2021年度理事会等開催状況について報告。

③寄贈図書が以下の2冊あったこと。

(1)大槻宏樹(2020)『「依存」の思想—「生きる」ための支点—』早稲田大学出版部

(2)全国社会教育職員養成研究連絡協議会(2021)『社会教育職員研究』28。

(2) 各種委員会報告

①年報編集委員会(入澤充委員長代理岩崎正吾委員・松岡侑介幹事)(資料04-①、②、③)

松岡幹事より、資料04-①に基づき年報編集委員会の体制、2021年度年報(17号)の印刷費等の見積、資料04-②に基づき2021年度年報(17号)査読・編集業務の進捗状況、書評4件・図書紹介1件になることについて報告がなされた。岩崎委員より、資料04-③に基づき、「日本学習社会学会年報執筆規程」の修正について説明がなされ、承認された。

②研究推進委員会(志々田まなみ委員長代理田中謙事務局長)(資料05)

田中事務局長より、資料05に基づき日本学習社会学会第18回大会で行う課題研究1の趣旨、登壇者について報告がなされた。

③国際交流委員会(赤尾勝己委員長)(資料06)

赤尾委員長より、資料06に基づき日本学習社会学会第18回大会で行う課題研究2の趣旨、報告者2名の変更があることについて報告がなされ、報告者2名が非会員のため謝金を支払うことに提案がなされ、承認された。

④『学習社会研究』第4号編集委員会(吉田尚史委員長)(資料なし)

吉田委員長より、投稿論文の査読者の決定、投稿6本の申し込みの内3本の提出があり現在審議中であるとの報告がなされた。

(3) その他

①『学習社会研究』J-stage登録について(資料08)

田中事務局長より、資料08に基づき『学習社会研究』J-stage登録の作業進捗状況、費用について報告がなされ

た。

②その他

特になし。

4. 審議事項

(1)『学習社会研究』第5号編集委員会について(新井郁男会長)

新井会長より、『学習社会研究』第5号編集委員会委員長に梶輝行会員の就任が提案され、承認された。

(2)第18回大会の開催準備について(堀井啓幸大会実行委員長)(資料09)

白鳥大会実行委員会事務局長より、資料09に基づき日本学習社会学会第18回大会開催要項、大会プログラム、静岡県内の参加者に関する条件、公開シンポジウム、課題研究1・2、総会は昨年度と同様にWeb総会で行う等について報告がなされ、承認された。

(3)入退会者について(田中謙事務局長)(資料10)

田中事務局長より、資料10に基づき入会申込者6名、申し出により退会者2名について、承認された。

(4)学会賞について(新井郁男会長)(資料なし)

新井会長より、検討委員会で検討することが提案され、承認された。

(5)異文化コミュニケーション学会(SIETAR Japan)からの申し出に関して(田中謙事務局長)(資料11)

田中事務局長より、資料11に基づき異文化コミュニケーション学会(SIETAR Japan)からの申し出につき報告がなされたが、これまで通りの対応とすることが承認された。

(6)2021年度第3回理事会開催日程について(新井郁男会長※田中謙事務局長)資料なし

新井会長より、2021年度8月28日(土)12:00から「Zoom」での開催が提案され、承認された。

(7)その他

特になし。

5. その他

特になし。

【配付資料】

資料01 2020年度第1回理事会次第

資料02 2019年度第4回理事会議事録(案)

- 資料 03 一般会務報告
- 資料 04-① 年報編集委員会資料
- 資料 04-② 年報編集委員会年間行事計画
- 資料 04-③ 年報執筆規定修正案
- 資料 05 研究推進委員会資料
- 資料 06 国際交流委員会資料
- 資料 07 なし
- 資料 08 『学習社会研究』J-stage 登録について
- 資料 09 大会案内
- 資料 10 入退会者一覧
- 資料 11 異文化コミュニケーション学会 (SIETAR Japan)

参考資料 web 大会開催案

回覧資料 入会申込書、退会申込書 (割愛)

2021 年度 第3回理事会

日時 2021 年 8 月 28 日 (土) 12:00~13:30
 会場 web 会議 (「Zoom」使用、事務局 (日本大学文理学部))

出席者 新井 郁男・堀井 啓幸・佐藤 千津・佐藤 晴雄・富士原 雅弘・田中 達也・入澤 充・岩崎 正吾・貝ノ瀬 滋・梶 輝行・金塚 基・北野 秋男・栗原 幸正・佐久間 邦友・志々田 まなみ・柴田 彩千子・田中 謙・前田 耕司・若園 雄志郎・上原 直人・金山 光一・益川 浩一・赤尾 勝己・柏木 智子・若槻 健・井出 弘人・吉田 尚史・森岡 修一

役職・地区順、敬称略) 計 28 名

欠席者 亀井 浩明・玉井 康之・望月 國男

(役職・地区順、敬称略) 計 3 名

陪席者 白鳥 絢也 (大会事務局長)・窪 和広・松岡 侑介・本間 夏海・市野 亮太 (事務局幹事)

五十音順、敬称略) 計 5 名

司会 田中 謙 (事務局長)

1. 会長挨拶 (新井郁男会長)

新井会長より、開会の挨拶が行われた。

2. 大会校副学長挨拶 (常葉大学窪田眞二副学長)

常葉大学窪田副学長より、大会に際しての挨拶が行われた。

3. 大会実行委員会委員長挨拶 (堀井啓幸委員長)

堀井大会実行委員会委員長より、多くの自由研究と充実した内容の課題研究が発表されることに対しての謝意が述べられた。

4. 2020 年度第 1 回理事会議事録の確認 (田中謙事務局長) (資料 02)

田中事務局長より、資料 02 に基づき第 2 回議事録の確認依頼が行われた。

5. 議題

【報告事項】

(1) 事務局報告 (一般会務報告) (田中謙事務局長) (資料 03)

田中事務局長より、資料 03 に基づき下記の状況が報告された。

① 学会員の状況は一般会員 219 名、学生会員 22 名の合計 241 名であること。

② 2021 年度理事会等開催状況についての報告。

③ 寄贈図書なし。

(2) 各種委員会報告

① 年報編集委員会 (入澤充委員長) (資料 04-①②③)

入澤委員長より、資料 04-①②③ に基づき報告がなされた。投稿論文については、7 本中 2 本の掲載となった。

② 研究推進委員会 (志々田まなみ委員長) (資料なし)

志々田委員長より、課題研究 1 について説明がなされた。

③ 国際交流委員会 (赤尾勝己委員長) (資料なし)

赤尾委員長より、課題研究 2 について説明がなされた。非会員の登壇者の扱いについての確認を田中事務局長に依頼。

④ 『学習社会研究』第 4 号編集委員会 (吉田尚史委員長) (資料なし) (

吉田委員長より、来年 3 月の刊行予定で、スケジュールに若干の変更があるものの、査読も順調に行われているとの報告がなされた。

⑤ 『学習社会研究』第 5 号編集委員会 (梶輝行委員長)

(資料 05-①②)

梶委員長より、資料 05-①② に基づいて報告がなされた。

スケジュールがタイトなため、編集幹事を3名にする。

⑥学会賞選考委員会(岩崎正吾委員長)(資料06)

岩崎委員長より、佐藤 晴雄会員、前田 耕司会員の2名が選考された結果、両名とも学会功労賞に値するとの報告がなされた。

(3)その他

特になし。

【審議事項】

(1)『学習社会研究』第4号について(吉田尚史委員長)(資料なし)

審議事項なし。

(2)2020年度会計監査について(鈴木廣志・坂内夏子監事、代理田中謙事務局長)(資料07)

田中事務局長より、資料07に基づいて説明され、承認された。

(3)第18回大会の開催準備について(白鳥絢也大会実行委員会事務局長・田中謙事務局長・佐久間邦友事務局次長)(資料なし)

白鳥大会実行委員長より、オンライン開催となった経緯等について説明がなされ、承認された。

(4)第19回大会の開催準備について(柴田彩千子大会実行委員長)(資料なし)

柴田大会実行委員長より、円滑な運営に向けてスタッフを充実させている等の説明がなされ、承認された。

(5)学会賞について(岩崎正吾選考委員長)(資料06、当日画面共有資料)

新井会長より、佐藤 晴雄会員、前田 耕司会員の2名が学会功労賞に推薦され、承認された。

(6)入退会者について(田中謙事務局長)(資料08)

田中事務局長より、資料08に基づいて、入会者なし、申し出により退会者2名の説明がなされ、承認された。

(7)2021年度学会総会について(資料09)

田中事務局長より、資料09に基づいて説明がなされ、承認された。

(8)2021年度第4回理事会開催日程について(新井郁男会長)

新井会長より、2021年12月11日(土)15:00から「Zoom」での開催が提案され、承認された。

(9)その他

特になし。

6.その他

特になし。

【配付資料】

資料01	2021年度第3回理事会次第
資料02	2021年度第2回理事会議事録(案)
資料03	一般会務報告
資料04-①	日本学習社会学会年報編集委員会理事会資料
資料04-②	年報編集委員会年間行事計画
資料04-③	日本学習社会学会年報第17号目次
資料05-①	『学習社会研究』第5号編集委員会メンバー構成案
資料05-②	『学習社会研究』第5号編集企画案
資料06	日本学習社会学会 学会功労賞の選考経緯
資料07	2020年度会計監査報告書
資料08	入退会者一覧
資料09	総会資料一覧
回覧資料	入会申込書、退会申込書(割愛)

第 18 回総会報告

日 時 2021 年 9 月 4 日(土)~2021 年 9 月 13 日
(月)
会 場 日本学習社会学会 web サイト

(1) 2020 年度決算案について(田中謙事務局長)
田中事務局長より、2020 年度決算案の説明がなされ、承認とされた。

1. 会長挨拶(新井郁男会長)

(2) 2020 年度会計監査について(坂内夏子監査・鈴木廣志監査 ※代理:田中謙事務局長)

2. 報告事項

代理で田中事務局長より会計監査結果の説明がなされ、承認とされた。

(1) 事務局報告(一般会務報告)(田中謙事務局長)

田中謙事務局長より学会員の状況は一般会員 219 名、学生会員 22 名の合計 241 名であること、2021 年度理事会等開催状況について報告がなされた。

(3) 2021 年度活動計画案について(田中謙事務局長)

田中事務局長より、2021 年度活動計画案の説明がなされ、承認とされた。

(2) 第 18 回大会報告(堀井啓幸大会実行委員長)

堀井啓幸大会実行委員長より第 18 回大会の内容等について報告がなされた。

(4) 2021 年度予算案について(田中謙事務局長)

田中事務局長より、2021 年度予算案の説明がなされ、承認とされた。

(3) 各種委員会報告

①年報編集委員会(入澤充委員長)

入澤委員長より、『日本学習社会学会年報』第 17 号の編集・刊行過程について報告がなされた。

(5) 第 19 回大会開催日程・会場校について(新井郁男会長)

新井郁男会長より 2022 年度第 19 回大会開催会場校は東京学芸大学を予定していることの説明がなされ、柴田彩千子理事・大会実行委員長の下準備を進めていくことが承認とされた。なお、日程等は今後の社会情勢を見守り、改めて会員に周知することも併せて承認とされた。

②学会賞選考委員会(岩崎正吾委員長)

岩崎委員長より、佐藤 晴雄会員、前田 耕司会員の 2 名の学会功労賞授賞について報告がなされた。

(4) その他

特になし。

4. その他

特になし。

3. 審議事項

お知らせ

1. 新入会員

2021年4月から12月(理事会時点)までに15名の方々が入会されました。

2. 第19回大会の開催

第19回大会は東京学芸大学(大会実行委員長柴田彩千子理事)を開催校とする予定です。日時等に関しましては、決まり次第学会webサイトにて改めてお知らせいたします。

3. 会員情報の更新

ご異動やご転居などにより会員情報に変更が生じましたら、お早めに事務局までお知らせください。

4. 寄贈図書(2021年1月~2021年12月受付分)

- (1) 早稲田大学教育学会:『早稲田大学教育学会』22.
- (2) 北野秋男会員:北野秋男・上野昌之編著(2020)『ニッポン、クライシス! -マイノリティを排除しない社会へ-』学事出版.
- (3) 井谷泰彦会員:井谷泰彦(2021)『モーアシビからエイサーへ -沖縄における習俗としての社会教育-』ボーダーリンク.
- (4) 古田雄一会員:古田雄一(2021)『現代アメリカ貧困地域の市民性教育改革』東信堂.
- (5) 呉世蓮会員:呉世蓮(2021)『日本と韓国における多文化教育の比較研究—学校教育,社会教育および地域社会における取り組みの比較を通して—』学文社.
- (6) 早稲田大学出版部より:大槻宏樹(2020)『「依存」の思想—「生きる」ための支点—』早稲田大学出版部.
- (7) 全国社会教育職員養成研究連絡協議会より:全国社会教育職員養成研究連絡協議会(2021)『社会教育職員研究』28.

年報第 18 号の自由投稿論文の募集

年報編集委員会

会員の皆様には、ご健勝にてお過ごしのことと存じます。さて、年報第 18 号の自由研究論文の投稿につきまして、以下の要領で募集しますので奮ってご投稿ください。なお、原稿の提出要領の詳細や編集規程に関しましては、学会のホームページ (<http://learning-society.net/>) をご覧ください。

1. 投稿論文テーマ

論文のテーマは日本学習社会学会の活動の趣旨に沿うものとする。

2. 投稿者資格

- (1) 本学会会員で前年度までの会費を納めている者
- (2) 上記以外のもので編集委員会が特に委嘱または承認した者

3. 投稿論文資格

投稿論文は未発表のものに限る。ただし、口頭発表及びその他の配布資料の場合はこの限りではない。

4. 原稿規格

(1) 原稿の量

- a) 研究論文は図・表・注・引用文献・参考文献等を含めて 16,700 字 (400 字詰原稿用紙換算で 41.5 枚、年報の 9 頁分) 以内とする。
- b) 研究ノートは図・表・注・引用文献・参考文献等を含めて 13,000 字 (400 字詰原稿用紙換算で 32.5 枚、年報の 7 頁分) 以内とする。
- c) 実践報告は図・表・注・引用文献・参考文献等を含めて 8,000 字 (400 字詰原稿用紙換算で 20 枚、年報の 4.5 頁分) 以内とする。
- d) ワープロ原稿の場合は横書きで印字する。原稿用紙の場合は A4 版 400 字詰原稿用紙 (横書き) を用いる。いずれの場合も字数制限を厳守すること。ただし、年報における見出し・小見出し等は 2 行取りとする。
- e) 年報編集委員会が特に枚数を指定した原稿は上記を適用しないものとする。

(2) 図・表・注等の規格

- a) 図・表はワープロ原稿の場合には論文中に挿入または貼付し、原稿用紙の場合には原稿中に挿入せず別の用紙に貼付し、その印刷位置・サイズをあらかじめ原稿に表示しておくものとする。
- b) 注・引用文献・参考文献等は原稿末尾に一括して掲げるものとする。
- c) 注の番号形態は「(1) (2)…」とする。

(3) 審査の公正を期すための留意事項

- a) 氏名・所属機関名は原稿には記入せず、別紙 (5. 提出原稿・書類の④) に記載する。
- b) 本文および注において「拙稿」「拙著」等の投稿者名が判明するような記述を行わない。

5. 提出原稿・書類

投稿にあたっては以下の原稿及び書類を提出すること。なお、提出された原稿及び書類は原則として返却しない。投稿者は論文原稿のコピーを必ず保存すること。

① 原稿 1 部

- ② 和文題目及び約 800 字の和文要旨 1 部
- ③ ②の冒頭に、日本語のキーワード 5 語以内を記入する。
- ④ 下記の事項を記載した別紙 1 部
 - ・執筆者氏名(日本語及び英語表記)
 - ・所属機関名(日本語及び英語表記)
 - ・研究論文、研究ノート、実践報告のいずれかを明示し、その題目(和文及び英文)
 - ・連絡先等(郵便番号、住所、電話・FAX 番号、e-mail アドレス)
- ⑤ ①～④の Word 形式の電子ファイルが入った電子媒体(CD-R、USB メモリー等)
- ⑥ 研究論文・研究ノートの場合、掲載が決定されたならば、直ちに英文題目及び 800 語～1,000 語の英文要旨 3 部を提出する。その際、冒頭に英語のキーワード 5 語以内を記入する。

6. 提出期限及び提出先

- (1) 原稿及び書類は 4 月 20 日(当日消印有効)までに年報編集委員会事務局宛に提出するものとする。
- (2) ワープロ原稿で提出した者は、掲載決定後速やかに打ち出し原稿と「テキスト形式のデータ(Word 形式)」の入った「電子媒体(CD-ROM、USB 等)」を指定された月日までに年報編集委員会事務局宛に送付すること。遅延した場合は理由のいかんを問わず掲載しない。

日本学習社会学会 年報編集委員会事務局

〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町 24-5

日本経済大学(東京渋谷キャンパス)松岡侑介研究室気付

日本学習社会学会年報編集委員会事務局 研究室

年報編集委員会 URL

<http://learning-society.net/nenpou.html>